

会議録【全文筆記】

会議名称	令和7年度第2回米沢市行政経営市民会議	
開催日時	令和8年2月18日（水）午後3時30分～午後5時20分	
開催場所	置賜総合文化センター203 研修室	
出席者	(委員氏名)	(所属団体等)
	委員長 神原 祐哉	神原法律事務所
	副委員長 中川 恵	山形県立米沢女子短期大学
	委員 伊藤 節子	米沢保育会
	委員 岩崎 令子	米沢観光コンベンション協会
	委員 大竹 茂	山形おきたま農業協同組合
	委員 尾崎 美聡	公益財団法人米沢青年会議所
	委員 菊地 智	株式会社山形銀行
	委員 岸 弘行	米沢公共職業安定所
	委員 小山莉津子	株式会社ニューメディア
	委員 斎藤 美綺	株式会社 nitorito
	委員 柴田 昌寛	米沢信用金庫
	委員 高澤 由美	国立大学法人山形大学
	委員 田中 明子	米沢商工会議所
	委員 舩山 勇幸	連合山形置賜地域協議会
欠席者	なし	
事務局出席者	市長、副市長、総務部長、企画調整部長、市民環境部長、健康福祉部長、産業部長、建設部長、市立病院事務局長、教育管理部長、教育指導部長、議会事務局長、選挙管理委員会事務局長、監査委員事務局長、農業委員会事務局長、総務課長、財政課長、政策企画課長、教育総務課長、財政課長補佐兼管財主査、政策企画課企画調整主査、政策企画課主任	
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 開 会</li> <li>2 委嘱状交付</li> <li>3 市長あいさつ</li> <li>4 委員自己紹介</li> <li>5 委員長及び副委員長選出</li> <li>6 委員長あいさつ</li> <li>7 議 事             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 会議等の公開について</li> <li>(2) 米沢市公共施設等総合管理計画のフォローアップについて</li> <li>(3) 米沢市公共施設等総合管理計画個別施設計画の改定について</li> </ol> </li> <li>8 閉 会</li> </ol>	
会議資料	次第 委員名簿 資料1 会議等の公開について 資料2 米沢市公共施設等総合管理計画のフォローアップについて 資料3-1 米沢市公共施設等総合管理計画個別施設計画の改定について (概要) 資料3-2 米沢市公共施設等総合管理計画個別施設計画の改定について (計画【案】) 資料3-3 米沢市公共施設等総合管理計画個別施設計画の改定について	

会議内容

【1 開会】

省略

【2 委嘱状交付】

省略

【3 市長あいさつ】

皆さんこんにちは。本日はお忙しいところお集まりいただきましてありがとうございます。今ほど委嘱状をお渡しさせていただきましたけど、お引き受けいただきありがとうございます。米沢市には様々な審議会、委員会があるわけでありましてけれども、フルラインの部長が集まる審議会というのはなくて、総合計画審議会とここぐらいではないかと感じたところです。すなわち、皆様に貴重なお時間をいただくわけでありまして、大事な話を御議論いただく委員会であります。行政経営についての議論をする会議であります。市が持っている様々な施設をどう統廃合するかという議論が中心になるかと思うわけでございます。米沢市公共施設等総合管理計画、そして、新しい米沢市公共施設等総合管理計画個別施設計画というものであります。米沢市は庁舎、病院、学校、コミセン、プール、文化センター、体育館と様々な施設を持っているわけでありまして、この施設について、ある一定期間を持って減らしていこうという大方針を考えております。20%削減だったと思いますが、ほとんど達成されておらず、難しいわけでありまして。施設を減らそうということは総論賛成であります。個別施設になった時に、それぞれのステークホルダーからやめてほしいという話が出るわけでありまして。そのことを計画で持ってどう実現していくか、これまでの20年間は目をつぶっていて良かったのかもしれませんが、なぜならば、人口減少が20年前から着実に進行していたわけでありまして、絶対数が多かったので感じなかったと思います。これ以上進むと大変厳しい状況になるというのが現状であります。その瀬戸際に私は市長のバトンを預かったということでありまして、この状況で放置すると本当に抜き差しなくなるというのが今の米沢ではないかと思っております。人口は加速度的に減りまして、あと20年間は間違いなく減るということでありまして。無論、総合計画では何としても人口減少に歯止めをかけるため、これまでになかった異次元的な政策を来年度において打ってまいります。打ってまいります。減るスピードをどこまで緩くできるかということが現実でありまして、人口が下げ止まるのは20年経ってからで、成果は出てこないだろうと思っております。しかし、20年間減り続ける中で、全部の施設をやめることが良いかというのは別の議論かと思っております。残すべきものは残さなければいけないし、再編すべきものは再編するしかないし、不要なものは速やかにやめるしかない。行政も責任を持っているいろいろなプランを作っておりますけれども、皆様の立場からも御意見をお寄せいただいで、一緒にこの計画、具体的なプランについて御意見を承りたいと思うところであります。次の世代に米沢を引き渡すためにも御議論いただければありがたいと思っておりますし、最終的にこの場で議論された内容についての責任は行政の長である私が負うということになると思っておりますので、率直な御意見を出していただければありがたいと思っております。どうぞ委員の皆様方におかれては、限られた時間ではありますが、よろしく御審議いただきますようお願い申し上げます。

【4 委員自己紹介】

省略

## 【5 委員長及び副委員長選出】

事務局提案により、神原祐哉委員が委員長、中川恵委員が副委員長として選出され、委員の承認を得た。

## 【6 委員長あいさつ】

私は前まで委員長をやらせていただいていたのですが、委員長の役割としまして、せつかくの会議でございますので、各委員必ず1回は発言いただきたいと考えております。市長が仰いましたけれども、米沢市の要職におられる方が並んでおられますから、御意見をお伺いする数少ない機会ですので、よろしく願いいたします。

## 【7 議事】

### (1) 会議等の公開について

(資料1について事務局から説明)

委員長 　ただ今の説明につきまして、何か御意見等はございますか。  
(異議なし)

委員長 　事務局の説明のとおり公開するものとして決定したいと思います。

### (2) 米沢市公共施設等総合管理計画のフォローアップについて

(資料2について事務局から説明)

委員長 　ただ今の説明に御意見はございますか。個別施設計画の内容もお聞きになってからのほうが議論しやすいところもありますので、まず次の説明をお願いします。

### (3) 米沢市公共施設等総合管理計画個別施設計画の改定について

(資料3-1～3-3について事務局から説明)

委員 　個別の施設は分からないのですが、スポーツ関連施設はなくしていけないと思いました。こどもがスポーツ少年団とかしている時に、借りられない時があったりして、大人の予約が殺到してしましました。26ページのスポーツ施設の稼働率判定というところなのですが、数字が小さいところはあまり利用されていないということですか。

事務局 　稼働率判定ですが、計画の基準となっております平成25年度から平成27年度までの平均利用者数に対して、令和5年度の人数がどれくらいかの割合になります。基準とした3カ年の平均に対して、どれだけ利用率が変化しているかを見るような数値になっております。

委員 　例えば、26ページの表の下から3番目の八幡原緑地テニスコートの0.13は、比較すると13%しか利用する人がいなくなったというような見方でよろしいですか。

事務局 　概ねそのような見方になります。基準を1とした場合、だいたい13%の利用率に低下しているという形になります。

委員 　そうすると、過去3年の上がり下がりではないということですか。

事務局 　資料3-2の11ページを御覧ください。一番下の稼働率判定ですが、平成25年度から平成27年度までの平均利用者数を1とした場合の令和5年度の利用者数の割合を示したものになります。

委員 　元々多いところがそのままのところは1で、元々よりも減れば0.7になるということは、いつも混んでいて入れないというようなことは反映されていないということでしょうか。

事務局 　時間として見た場合に、予約していればマックスは100しかないの

で、それ以上の利用できない方の割合というところはこの中には現れてこないと思っています。一方で、利用する人数がそもそも減っているところで、例えばもともと1グループ10人で使っていたものが、今は5人グループで使うのが一般的になっているとなれば、数値も0.5という形になると思いますので、それぞれ分析してみないと分からないところと考えております。

委員長

利用している人が予約しているから他は使えないということが発生するわけです。予約している人数が前は10人だったけど少なくなりましたが、他のグループは枠が埋まっているので使えないということになると思います。大前提として当時よりも人口は減っていますし、スポーツを楽しまれる層も減っている中で、この方法で稼働率を判定することが有意義なのかというのが疑問だと思います。実際利用している側にとって必要な数字はそこではないと思われますので、評価の方法自体を改めたほうが良いのではないかと感じました。

委員

スポーツ施設に関連して、市営体育館と市営武道館の概要を拝見しまして、平成18年度に耐震診断を行った結果、耐震補強は不要という記載ですけど、それ以降に耐震診断はされていないのでしょうか。

事務局

耐震診断は一度確認させていただいた結果をもって、その後行っておりません。

委員

20年前の耐震診断というところが印象としてあったので、東日本大震災とかもあったと思いますし、20年前の診断で大丈夫かは不安になることもあるという印象でした。あと、市営武道館に関して、「個別に見ると柔・剣道場は多くの団体・個人が利用」とありますが、柔・剣道場以外はどういった部分でしょうか。

事務局

武道館は柔道場、剣道場の1階に弓道場がございまして、その部分になります。

委員

私も利用させていただいていたのですが、柔・剣道場以外に人がいるのをあまりお見かけしたことがなかったので、必要な部分であれば残していただくのが使いやすいと感じたところでした。

委員

先ほどの稼働率のところでお話しさせていただくと、飲食店を営んでいるものですから、例えば100人入るお店で60%お客様がいれば黒字になる、その損益分岐点という数字が経営だと出てくるのです。100人入るお店で10年前も30人の利用、今も30人だとしたら、経営者としては閉店という選択肢に入ってくるわけです。稼働率の考え方で、前の数字と比べるのではなく、その施設が有効的に活用されているであろう数字を割り出して、それをクリアしているかを示していただけると、判断しやすいという印象です。あと、延床面積を減らしたいという意向についてですが、なぜ延床面積にこだわって減らしているか、施設数ではなく面積にこだわる理由を教えてください。

事務局

施設を減らすというほうが分かりやすい部分はあるかと思いますが、一方で維持管理コストを考えますと、規模が大きくなればその分コストも上がるものですから、考え方の一つとして延床面積を目標にしたところになります。

委員

稼働率は検討いただいて、判断しやすくなる資料が出てきたら嬉しいと思います。

委員

本当に市内にたくさんの施設があるということと、50年以上経った古い建物が多いと実感しております。私どもで指定管理をさせていただい

ている置賜広域観光案内センター、駐輪場も掲載されておりまして、案内センターは開設して 30 年ちょっとで他よりは新しいですが、毎年老朽化していて修繕をお願いしているのですが、予算の関係で難しいというお話も聞いております。利用される方が安全安心に使っていただくことが一番ですので、今々の修繕が難しいのであれば、安全安心な建物であることを市民にも御理解いただきながら使っていただくのが一番だと思います。あと、67 ページの自転車駐車場のところで、和式トイレから洋式化をされておりますが、今回の雪灯籠まつりも女性のトイレが非常に長い行列でした。洋式トイレが少なく和式が使えなくて並んでいるという現状もあります。トイレの洋式化なども進めていただけると利用の促進につながると思います。

委員 調整中という表記について、具体的にどのように表記されるかイメージを教えてください。

事務局 調整中の中身ですが、10 年間の施設の中でのあり方の検討や改修などの項目が入ってきます。イメージとしては 2 段書きとし、上段に施設のあり方検討や改修などの取組の内容を、下段にそれに係る事業費を掲載する方法で考えております。

委員 指標に関してですが、今回の計画の目的としては縮小していきたいというものだと思いますので、稼働率判定の指標は残しておくことに意義はあると思っておりました。皆様の御意見を参考にしたものを改めて作るのであれば、別の項目として記載したほうが良いのではないかと思います。あと、都市計画マスタープラン、立地適正化計画との連携ということで、都市機能誘導区域あるいは居住誘導区域の地図を表記することで可視化して、公共施設がここに立地しているということが分かる図面を追記いただきたいと思います。

事務局 稼働率判定はどういった表記表現ができるか調査研究させていただきます。立地適正化計画の図面は計画に盛り込む方向で準備させていただきます。

委員 市民会議の役割の質問ですが、市民会議であり方検討の中身を決めたりするような役割になるのでしょうか。

事務局 あり方検討の中身は事務局で検討していくことになります。具体的なところは事務レベルで進めるところが多いと思いますので、現在のところ市で進めていきたいと思っています。

委員 市民会議ではより分かりやすく市民に理解いただくための調整をしていくということで承知しました。

委員 人口減少の中でコンパクトシティ化を目指すということで、集約した施設にできるような文言にしていきたいと思います。廃止ばかりではなく、そこに行けばいろいろな機能があり用事が済むとか整備も考えていただきたいと思います。施設の総合的な政策に取り組み、長い目で市民目線で利活用しやすい方針を打ち出していいただければと思います。

委員 維持管理費を 10%削減することを考慮して、面積を削減するという記載があり、お金の話をしている中で削減するところが面積ということがリンクしません。例えば、利用料を上げてみるとか収入を増やすということも物価高の中で価格転嫁は常識になっていますので、優先順位をどこに置くか、経費を 10%下げるか延床面積を 20%下げるか、はっきりさせることで議論が深まるのではないかと思います。

事務局 国から策定を求められた理由として、高度経済成長時代に建設された

公共施設の耐用年数が一斉にやってくることで維持管理費用が今後膨大なものになっていくということで、施設そのものを人口の減少に合わせて減らしていかなければならないという切り口から始まりました。お金の部分は物価高騰等で毎年変動が出てきてしまうため、20年間という長期の計画の中での目標としては延床面積を目標にせざるを得なかったのではないかと考えております。

委員

26ページのスポーツ施設ですが、老朽化比率判定で大きくマイナスになっている、耐用年数以上に経過年数を経ているからマイナスになるのは当然ですけど、そういった中で稼働率も低くなっており、コストがこれに対してどのくらいかかっているか、採算が合わない部分は早めになくしていくということが考えられると思います。そういった部分も表記にもう少し分かりやすくしていただければと思います。

委員

施設にいくらかかっている、利用人数がいくらで、1人あたりこれぐらいのコストがかかっていますという具体的な数字を出していただければ検討しやすいのかと思います。

委員

吾妻山麓放牧場のように広大な土地があるところのコストの出し方は今後やられますか。

事務局

維持管理コストは土地にかかる費用も入っておりますが、計画自体が建物系施設を削減していこうというものになっているものですから、建物の延床面積を減らすことで維持管理コストも削減していこうというものです。施設の廃止となれば敷地の部分も合わせて廃止になると考えておりますので、そういった面での維持管理コストの削減につながると思います。

委員

民間では維持できないが、公益的に重要だからこそ作ってきたという面もあるわけで、住民が納得感を持って理解していくためにも、数字があってしかるべきだし、そうした判断材料が明確に公開されていると話し合いもしやすいと思いました。また、全般的に横書きにするなど、レイアウトも一考の余地があるかと思います。

委員

資料は横書きにすると見やすくなると思いました。老朽化比率判定と劣化状況判定の違いなどがよく分からなくて見ていました。

事務局

老朽化比率は建築してから経過した年数と耐用年数の比率ですので、長く使っていれば数値が悪くなります。劣化状況判定は職員が屋根や外壁、設備等を目視で点検している結果になりますので、手をかけている建物については判定が良くなります。

委員長

稼働率という言葉一つとっても見方がいろいろありますし、施設が古いかというところは写真1枚あれば違ってくるかと思います。網羅しようとするとなんか難しくなるとは思いますが、改善いただければと思っております。

【8 閉会】  
省略